

さくら第505号

令和 4年 1月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7: TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

いあわせは
 いづも
 じぶんの
 こころが
 きめる
 かつと

『祈りと願い』

2011年3月11日14時46分、宮城県男鹿半島を震源地とする巨大地震はマグニチュード9.0という未だかつてない大惨事となり、東北地方を中心に12の都道府県での死者は約1万5千人。行方不明7千五百人。負傷者が1万5千人。避難生活者が12万5千人といい、福島第一原子力発電所事故が重なり、巨大津波が40mの高さにもなり、町のなかを襲う光景はこの世のものとは信じられません。

テレビで何度となく見るたびに、逃げる人達のすぐそばに押し寄せる濁流をみると、速く逃げてほしい、高い建物に避難してほしいと声を出しながらただ「祈る」だけでした。

2021年1月10日、福井県内は大雪となり北陸自動車道路は56cmも積もった雪のため、大型トラックのスリップ事故が元となり、大渋滞となりました。丸岡インターチェンジなどからの進入を止められず1500台もの車がストップしている状況をテレビで見ると、神様・仏様に向かって手を合わせ、もうこれ以上雪が降らないでと「祈る」だけでした。

2022年の新年は、神社に詣でて「祈り」をささげる人が多くおられることでしょう。お賽銭をポーンと投げ、今年一年家族全員が無事で元気ですごせますように、入試に合格できますようになどと心のなかで唱える人もいますが、これらは祈りというより「願い」だと思います。「祈り」とは、「意に乗る」、「意志を乗せる」、「意を宣言する」ことだといい、「願い」は個人的なことがらが中心で、こうなって欲しいという願望ともいえるでしょう。

「願い」は「根我意」と書き、自分の願望を神様に叶えてもらおうという他力本願だともいえます。人に物をたのむように、神様に、よろしくお祈いしますと依頼しご縁がありますようにと五円玉を投げ入れるようです。

古来、祈りは人知を超えた特定の聖なる対象に「思い」をささげることで、その対象は神などの絶対者であり、仏であり、太陽や山などの自然物でもありました。

ささげる祈りもかける願いもどちらも人間にとって大切なことです。どちらが良い、悪いということはないでしょう。神社仏閣では祈りますが祈りは感謝なので、お祈いするところではないようです。祈りは神に通じ、願いは人に通じることだと思います。

私は、神社へ詣でた時は、元気でがんばりますから見ていてください。ありがとうございますと心のなかで言うようにしています。

祈りの語源は「生(い)きることを宣べる(のり)」ともいわれています。自分の行動を宣言することです。

「合格させてください」と願うのではなく「合格できるように勉強するので見守ってください」と祈ります。行動するのは自分です。

古代日本人は、一木一草、あらゆることに神が宿ると信じていました。雷を起こすのは雷神で、山の神は田植え時期になると里に下りてきて田の神になり、台所には火の神がいます。太陽を御天道様(おてんとうさま)と敬います。太陽は天地をつかさどり、すべてを見通す超自然の存在として敬います。

おてんとうさまに恥じない生き方をし、何かの恩恵を受けても、おかげさまと感謝します。見えないものへの畏敬の念を日常の生活のなかで持ち続けていきたいと思ひます。

何も特別な場所にいかなくても、日常のなかで、がんばってね、気をつけてね、元気でねと声かけたり、いってらっしゃい、いただきます、おかげ様でという何気ないひと言が祈りにつながっていると思ひます。祈るという美しい感情が心を豊にし周囲をも和ませます。